

変化への挑戦

(創造型組織に向けて)

(有)関西中小企業研究所
代表取締役 中上義春
(中小企業診断士)

変化拒否症候群

●理由

- 今のままで、業績もどうにか確保できている。
- 新しいことに挑戦するとリスクもある。
- 新しいことを吸収するのは大変だ。
- 現状の業務で手一杯、新しいことをする余裕はない。

変化しない場合には

- **周囲は変化している。**
変化しなければ、経営の危険性が大きくなる。
- **景気影響で無い、業績の向上。**
期待できない、給与源泉の拡大は無い。
- **事態の変化**
判りにくい、判った時は手遅れ。大ナタ

変化のための準備

- **経営理念、目的の確認**
 - 変化を考える際の基。
- **現状の確認**
 - 自社の良い点、悪い点の明確化
- **組織の変化への適応力の向上**
 - 柔軟性と積極性のある組織とは

変化は簡単か？

- 常識の壁
- ・発想者の常識
- ・周囲の常識



思考阻害要因

- 無知の壁
- ・技術的無知
- ・市場的無知

- 焦点の不一致
- ・個人的不一致
- ・組織的不一致



効率阻害要因

変化の方向と項目は

- 変化の方向の明確化
 - 事業展開指針の明確化

- 変化の項目の明確化
 - 参加者がその項目を最重要と認めている。
 - 準備すべき内容は。
 - 準備すべき項目の優先順位は。
 - 各自の役割が明確化し、集中的に。

創造的組織を作る。

- 集団発想技法を考える。
- 代表的な発想技法 B S 法、K J 法等

- 創造的組織構造・運営法を考える。
- 創造的リーダーとは
- コーチング技法とは
- 権限の委譲と明確化
- 日々革新するには

変化推進の構造化

- 問題の各レベル展開を図る。
- B S C手法により各レベル問題の整合性を確保。

- 解決策の各レベル展開を図る。
- B S C手法により各レベル解決策の整合性を確保。

- 評価法の確立
- 評価指標と目標値の明確化



終

引き続き
「現代社会のキーワード」を
ご覧下さい。

現代社会のキーワード

(有)関西中小企業研究所

代表取締役 中上義春

(中小企業診断士)

第一位 キーワード グローバルゼーション

グローバルゼーションとは

- 1) ジャングル社会
- 2) 巨大資本の競争
- 3) 価値観の多様化
- 4) 独創性の尊重(欧米)
- 5) スピードの重視(米)

チャールズ・ダーウインの 進化論の出番

- 1) 自然界の生物は多種・多様であってこそ共存共栄し得るのであり、単一あるいは同種・少数種の寡占では結局はその種族の維持さえも困難になる。
- 2) 生き残ることができる生物種は、最も強いものでも、もっとも賢いものでもなく、最も環境の変化に敏感で、柔軟に適応したものである。

必要な能力の変化

安定維持
の能力

変化へ
の対応能力

革新能力
(創造力)

利益源泉の変化

ハード
(設備、資本)

ソフト
(知識)

人間のみ
の持つ独創性

従来型企業組織像

命令と統制

権限のTOPへの集中

多段階層構造

時代背景

激しい技術革新
スピード重視

問題

速い市場の変化
経験則での予測が難しい

社内調整、意思決定の遅延
機会の損出

求められる企業組織像

課題

変化のスピードに追
随できる組織

改善策 (権限委譲)

- 1) フラット組織化
- 2) チーム組織化

移行の際の問題

- 1) 新しいプロセスや価値観への従業員の調整・順応能力の向上。
- 2) 各自の持っている能力や可能性の発揮の最大化

- 1) 各自の学習、能力の向上
- 2) 各自の能力発揮の最大化 管理層による支援

問題解決手法

人材開発重視の手法

ビジネスコーチング

- 1) 管理手法の変革
個人能力の発揮を促進する
管理手法
- 2) パーソナルコーチング
個人能力の向上を目指した
コーチング

BSC

(バランス・スコア・カード)

財務偏重の企業運営からの脱却

- 1) 人材の育成、変化への
対応能力向上を基盤とした
- 2) 業務プロセスの革新
- 3) それに伴う顧客満足の上
昇
- 4) その結果としての財務の高業績化

終